

# 就業体験もとに 総社市政へ提言

## 県内大学・短大生90人

総社市のインターンシップ(就業体験)に参加した県内の大学・短大生が職場での体験をもとに市に政策提言を行っている。市は優秀な提言を行った学生を近く表彰する予定。インターンシップは2009年度から始まった。

大学ごとの成果報告会が10～18日、市役所で行われており、学生



市長や市の幹部を前に政策を提言する県立大生

が大学で学んだ専門知識や体験で感じた市民のニーズなどを反映させた提言を片岡聡一市長や市の幹部に披露している。

1～3年生18人が参加。「多文化共生になげたい」として、図書館で外国籍の親子と日本人の親子が交流する読み聞かせイベントを開いたり、認知症に対する理解を深めるための情報発信を市の公式LINE(無料通信アプリ)を通じて行ったりするなどの提案をした。

市は発表内容の着眼点や実現可能性を5段階で評価。実際に政策に取り入れることも検討する。(久万真毅)